

琵琶湖モデルをベトナムに。産官民一体となって カットバ島の水質改善を目指す

株式会社 KANSO テクノス



観光島カットバの水環境改善に向けた協働体制づくりの協力支援

JICA・草の根技術協力(平成27年度～平成29年度)

実施体制

滋賀県
株式会社KANSOテクノス
株式会社日吉
大阪府立大学

プロジェクトの概要

観光地として人気のベトナムハロン湾に隣接するカットバ島は、近年著しい観光開発により水質汚濁が懸念されています。「カットバ島の環境保全と経済成長が両立するグリーン成長を目指す」という共通認識を島民が共有し、産官民が一体となった協働体制の基盤を確立して、各主体の連携による水環境保全の活動を促進し、カットバ島沿岸域の水質改善を目指すものです。現在は、カットバ島沿岸域だけでなくハロン湾水域を対象に再度事業採択を受け、フェーズ2を実施しています。



子供たちへの環境教育



現地事業者による水質調査



グリーンカットバによるごみ拾いの活動

「気づき」をテーマに。「グリーンカットバ」を結成し、自主的にごみ拾い

プロジェクトの支援内容

草の根プロジェクトという事で、島民に水質汚濁に気づいてもらうことが大きなテーマでした。その実現に向けて、行政には住民・事業者へのファシリテートスキルの向上支援、事業者には簡易水質測定による汚染の実態把握、そして住民に対しては、小学校の教員や青年団を介して子供たちへの環境教育の支援を実施しました。現在実施中のフェーズ2では、カットバ島での適切な排水処理施設の運営管理計画の作成を支援するとともに、覚書を締結している滋賀県とクアンニン省の連携の下、行政区域の壁を越えたハイフォン市とクアンニン省の連携によるハロン湾水域の水環境改善を目指しています。

プロジェクトを実施する上で直面した課題

当初はカウンターパートである現地行政機関との信頼関係の構築が進まず、また環境への意識も低かったため、打合せや研修への参加が得られないこともありましたが、しかし関係が深まるにつれ、積極的に協力してくれるようになり、円滑に研修やその他の活動が実施できるようになりました。また社会主義国のベトナムでは、教員自らがカリキュラムを考える習慣が無く、環境教育がなかなか根つきませんでした。今後は、環境教育が一過性のものにならない仕組みを考案する必要があると思っています。

プロジェクト実施の成果

「気づき」という難しいテーマでしたが、最終的には行政・事業者・住民の共同体「グリーンカットバ」が結成され、自主的にゴミ拾いなどの活動をするようになりました。この取組はプロジェクト終了後も続いています。大きな成功要因は、環境に対する危機意識が高く、事業者や行政に対して発言力とリーダーシップのある事業者協会会長が強い熱意を持ってプロジェクトに協力してくれたことです。プロジェクトを成功に導くには、影響力のあるキーパーソンを見つけ、理解と協力を得ることが重要だと実感しました。また草の根プロジェクトは、短期的には数値的成果を示すことは難しいですが、日本の知見やノウハウが現地で受け入れられ、結果的に社会の役に立つというのは、とても大きなやりがいを感じました。

ベトナムでのプロジェクト経験を活かし、新規プロジェクトの開拓を目指す

今後の海外事業の展望

平成30年(2018年)に日本エヌ・ユー・エス株式会社と共同でハノイに合併会社を設立しました。主な業務は、環境コンサルティング、環境調査・分析及び商品貿易業務です。これまでベトナムでは単発の調査しか実績がありませんでしたが、このプロジェクトを通して、現地政府関係者との関係を構築できたからこそ実現できたのだと思っています。ベトナムでのコネクションやプロジェクトのノウハウを活かして新規プロジェクトを開拓することに取り組んでいます。